



沼山小学校
たけのこ採り(12ページ参照)

西川町 議会だより



2009.7.15

69

- ・議会構成 2
- ・6月定例会 3
- ・一般質問 4~8
- ・議会のうごき 9~11
- ・「究める・人」シリーズ No.9 さつきづくり 12

発行 山形県西川町議会

興のために

議会構成を一新!



井場 榮治

監査委員 (議会選出)



渋谷 雄三郎

副議長

4月27日、平成21年第1回臨時会を開き、副議長に渋谷雄三郎議員を選び、井場榮治議員を監査委員(議会選出)としました。副議長選挙は無記名投票で行い、渋谷雄三郎議員が投票総数10票のうち9票を獲得(1票は白票)しました。任期は2年です。また、全員賛成で井場榮治議員を監査委員としました。そのほか、常任委員会委員、議会運営委員会委員、西村山広域行政事務組合議会議員を全員賛成で選びました。臨時会ではこのほか、町税条例等の一部を改正する条例の設定の専決処分を全員賛成で承認し、また、西川小学校(統合小学校)建設に使用する町産木材775mを西川町製材協同組合(土田省伊知郎代表理事)から5460万円で購入する議案を賛成多数(賛成8人、反対1人)で原案のとおり可決しました。

総務厚生常任委員会



- 委員長 井場 榮治
副委員長 松田 昌一
委員 池上 久博、黒坂 久一郎、渡邊 昌一

産業建設常任委員会



- 委員長 古澤 俊一
副委員長 青山 知教
委員 渋谷 雄三郎、佐藤 征男、宮林 昌弘

広報公聴常任委員会



- 委員長 宮林 昌弘
副委員長 古澤 俊一
委員 青山 知教、松田 昌一

議会運営委員会



- 委員長 佐藤 征男
副委員長 宮林 昌弘
委員 井場 榮治、古澤 俊一

西村山広域行政事務組合議会議員



- 黒坂 久一郎
渡邊 昌一
池上 久博

次の役職は変更ありません。

議長 黒坂 久一
町有林運営委員会委員 渡邊 昌一

農業委員 (議会選出) 松田 昌一、宮林 昌弘、黒坂 久一

渋谷 雄三郎

ふるさと振

過疎地域対策の充実強化を要望！



6月10日から12日までの3日間、平成21年第2回6月定例会を開き、議員が提出した新たな過疎対策法の制定に関する意見書などの意見書2議案を全員賛成で可決したほか、町道認定などの請願2件を全員賛成で採択しました。また、町長が提出した780万円を追加し、総額を52億7780万円とする一般会計補正予算案など、補正予算案3議案を全員賛成で原案のとおり可決しました。

定例会ではこのほか、町が資本金の2分の1以上を出資している株式会社2社の経営状況など3件の報告がありました。

一般質問では、5人の議員が町の政治・行政について町長の施政方針をただしました。

新たな過疎対策法の制定に関する意見書を可決

本町は、平成12年4月に施行された過疎地域自立促進特別措置法による過疎地域です。

過疎対策については、昭和45年以来、これまで4度、特別な法律が作られ、各種の対策が講じられています。

特別措置法では、人口の著しい減少に伴って地域社会における活力が低下し、生産機能および生活環境の整備等が他の地域と比較して低位にある地域を過疎地域としています。

県内では、今年の4月現在で35市町村のうち18市町村、町村では22町村の7割近い15町村が過疎地域です。

過疎地域の市町村に対しては、国からの財政上の特別措置などがあります。たとえば、西川小学校のような統合小学校を建設するときに、原則2分の1の補助が10分の5・5になります。

また、元利償還金の一部が地方交付税として交付される過疎債という借金をすることもできます。

これまでの過疎対策により、生活環境の整備や産業の振興など一定の成果を上げていますが、現在の特別措置法が平成22年3月末で効力を失います。

豊かな自然に恵まれた過疎地域が国民全体の安心・安全な生活に欠かせないものであり、引き続き総合的な過疎対策を充実強化させるよう政府に要望する意見書を可決しました。

西川町総合開発(株)
(第18期、平成20年4月1日～21年3月31日)

当期の売上高は5億5929万円で前期比5・8%減、経常損失は1178万円、税引き後の純損失は1203万円。

全国的な経済不況に加え、燃料費の高騰でお盆の帰省客が激減し、8月の売り上げがこれまでになく大幅な減少となったことなどにより、経常損失を計上しました。

株式会社の経営状況

西川町総合開発(株)
(第18期、平成20年4月1日～21年3月31日)

当期の売上高は5億5929万円、前期比5・8%減、経常損失は1178万円、税引き後の純損失は1203万円。

全国的な経済不況に加え、燃料費の高騰でお盆の帰省客が激減し、8月の売り上げがこれまでになく大幅な減少となったことなどにより、経常損失を計上しました。

当期の売上高は3773万円、前期比14・9%増、経常損失および税引き後の純損失は890万円。

経常利益の改善が図られているものの、白い発芽胚芽米「月山まんま」の売り上げが確保できていないことなどにより、経常損失を計上しました。

請願採択

◎仮称「月山沢八幡坂線」町道認定請願書

提出者

本道寺地区会長 黒田 宣幸
月山沢地区住民 渡部 節子
紹介議員 安藤 光信
宮林 昌弘

◎教育予算の拡充を求める意見書の採択に関する請願

提出者

山形県教職員組合西北村山地区支部長 安孫子敏晴
紹介議員 佐藤 征男



水にこだわり、水を利用した まちづくりの幅広い取り組みを

町長…水や川の利活用は、全体的に検討していきます



ドラゴンカヌー



宮林昌弘 議員

小規模水力発電の可能性調査を

クリーンエネルギーとして、小河川や用水路を利用した小規模水力発電機を設置し、公的施設や農業面で利用できませんか。

過去にも検討した経過がありますが、地球温暖化対策でも水力発電が見直されており、国の施策の動向を見ながら、電力の使途、建設コストなどを考え、採算に見合う実用的なものとして可能かどうかも含め研究、検討の必要はあると考えられています。

寒河江川の多面的な利用を

郷土を愛する心を育むために、ふるさとでの思い出づくりの「場の提供」として、釣り場のみならず水泳や水遊び、魚捕りが自由にできる区間を設定するなど

して、寒河江川を多面的に利用できませんか。

寒河江川は町民にとって身近であり、ふるさとの原風景といえます。地域での活用事例や必要性も検討すべきと考えます。観光として取り組むには、食や生活文化、歴史などとあわせて考える必要があり、学校教育では川の活用も考えています。

水の文化館の「川雑魚水族館」の内部を改造し誘客の拡大を

子どもから人気のある川雑魚水族館の魚種を多くし、内部改造と看板を大きくして施設を充実すれば、誘客拡大になるのでは。

水の文化館の「川雑魚水族館」は、西川町総合開発(株)が水槽などの器材を整備して淡水魚を展示しています。今後も、その内容を充実しながら継続していただきますが、展示施設も見直しを図るべく検討したいと考えています。



川雑魚水族館

水と雪を関連づけ新たな事業展開や観光開発を

水と雪の変態を関連づけたストーリーづくりや、新たな事業展開など観光面での取り組みが考えられませんか。

町民の雪と水のかかわりは深く、特産品や観光資源として活用されてきました。今後も、それらを支援し、雪も水も含めた天恵の資源、豊かな自然をうまく活用してストーリーのある事業展開や取り組みを心がけていきたいと考えています。

危機管理体制は万全ですか

町長…災害は地域防災計画にもとづき万全を期します



池上 博 議員

各市町村では学校を避難場所とし、避難場所の看板を設置しています。また、山形市などでは道路沿いに避難誘導看板を設置しています。西川小学校でも設置できますか。

避難所表示と誘導表示の設置



地震体験(にしかわ保育園)

昭和42年の集中豪雨で小国町が一夜にして泥の海となったときに400人の命を救ったのは小国小学校施設でした。西川小学校に、その役割がきますか。

西川小学校は、安全な場所に建設しており、自然災害の種類や規模にもよりますが、避難所としての役割は果たすと考えていますので、開校時には、避難所に指定します。

は、全町的な課題と捉えていますので、今後、検討します。整備する際には、西川小学校にも当然、設置します。

洪水ハザードマップの作成は、大地すべり地帯がある本町では急務であり、避難場所として西川小学校を明記できますか。

また、インドネシアでは豪雨でダムが決壊しダム絶対神話が崩れました。西川小学校は低地であり、どう捉えますか。

西川小学校が完成した折には、避難所として町の地域防災計画にも明記します。

インドネシアで決壊したダムは、土で造られたダムであったと聞いています。寒河江ダムの決壊は考え難いことであり、西川小学校建設地は安全な場所であると考えています。

鶴岡市の七五三掛地区では大規模な地すべりが発生。志津地区でも深さ80〜100mに地すべり面があり心配です。現在

の状況と寒河江ダムへの影響は。また、西川小学校用地造成の土の搬入先および搬入量は。さらに土質に問題はありますか。

志津地区の調査結果からは、表面での動きは観測されず、寒河江ダムまでは距離もあり、直接の影響はないと考えています。

西川小学校用地造成の土は、国土交通省等から約19300m運搬してもらいましたが、グラウンドに流用するものです。土質については、校舎部分を含めてまったく問題ありません。



ポンプ性能検査(間沢消防団)

雇用促進住宅 睦合宿舎を 定住人口維持確保のために

町長…町営住宅、住宅地分譲の定住対策を進めています



雇用促進住宅 睦合宿舎



渡 邊 久一郎 議員

第5次総の中心である定住人口維持確保に巨額な投資をするより、まずは睦合宿舎を譲り受け、低所得者層、特に人口流出を防ぐための若者定住に努めるべきでは。

また、若者が定住するためには、経済的な裏づけが必要不可欠ですが、対策は。

定住人口維持確保のために睦合宿舎は、規模、価格、さらに居住されている方のことを考えれば、譲渡も

妥当とは考えますが、町営住宅および住宅地分譲の定住対策を進めています。
経済的な裏づけの雇用環境の充実、既存の就労の場の確保を図るのが先決です。

議会全員協議会では、必要性、利用性

および財政的な問題から睦合宿舎を譲り受けないと説明しましたが、再度、説明を求めます。そのときの議員の意見および態度は、議決案件の場合、否決です。どう捉えますか。

朝日町では雇用促進住宅を譲り受け、定住人口確保、人口流出防止の実績ができています。第5次総計画を早期に達成するために譲り受けるべきでは。

議会全員協議会での各議員の意見は、賛成、反対それぞれで、意見は真摯に受け止め、当初方針のとおり「譲渡は受けない」ことに変わりはありません。企業の配置および雇用環境等も考慮しての判断です。

地域活性化のための地域づくりをどう進めますか。

基本は、地域の皆さんの自主的、主体的な活動であると考えています。そのために、町は社



睦合小学校創立100周年記念式典

会資本を整備し、地域の皆さんの生活と活動を支援しています。また、地域の特性を活かした地域主体の地域づくりのため、地域支援職員を派遣しています。

睦合宿舎の譲渡は受けられないという雇用・能力開発機構に対する回答を保留できませんか。

趣旨はわかりました。検討します。

人口集積地の拠点地形成に 町民の十分な声を

町長…機会を捉えてご意見をお聞きし、進捗状況等もお知らせします



古澤俊一 議員



西川せせらぎ住宅団地

都市再生整備計画づくりに業者に委託

人口集積地を形成するために集落調査は欠かすことができない調査であり、把握状況は、また、町民の状況把握のために、アンケート調査を考えていますか。

近年にない多区画の分譲地や、公共建築物も構想にあります。近隣の分譲地販売が伸び悩むなかで、町政の足かせにならない慎重な計画を。

土地開発公社で行う場合は、借入金で行うため、利子が膨らみ、販売したときの差額で赤字になることがあります。今回は、町の事業として町費で行う計画で、そういうことはありませんが、無駄のないように十分留意し、売れ残らないような分譲の条件等を検討しています。

将来を担う若者の構想と、町民の声を聴く座談会等の開催の考えは。

個別の事業では、必要に応じて担当課などで各地区での説明会などを開催しており、これらをもとに中期実施計画の実現をめざしていますので、今後の状況によっては検討したいと考えています。

分譲地の必要性は十分にあると思われませんが

町を担う若者の定住対策が不可欠という観点から、若者の声を幅広く聞いて人口集積地を考えるべきでは。

町民はもちろん、県内外を問わず情報発信が必要と考えており、若者向け分譲も十分検討し、機会を捉えてご

集落移転や再編は、地域や地域の皆さんの意向が第一です。で、町が積極的に集落移転などを推し進めることは考えていませんが、本年度、町民アンケート調査を実施しますので、皆さんの意向をどのように調査に盛り込むかも含め検討しています。経済情勢は国内外を問わずいまだ厳しく、不況感あり



中高生ボランティアサークル くれよん

産地確立交付金を減らして 産地づくりができるのか

町長…本町の生産環境を考慮し、市場外流通システム化をめざします



渋谷 雄三郎 議員



農地法の改正で農業・農村は大丈夫か

企業の参入に道を開く農地法の改正をどう捉えていますか。

農業団体等の意見も反映され、たなかで審議されていますが、農地の効率的な利用促進が大きな目的であり、本町の場合、企業参入もさることながら、遊休農地や耕作放棄地の有効利用が当面の課題で、農地管理の徹底が強化されることとなります。

機械等利用組合への助成、堆肥センター建設の見直しは

各団体が使用している機械等への助成をすべきと考えますが、また、堆肥センター建設の取り組みの進捗状況は。

機械利用組合等への助成は、組合の自立を促すため

に町の補助金を廃止しています。が、国の緊急対策や既存の制度を活用し対応することとしています。

堆肥センターは、地理的条件や畜産農家および酪農農家の環境も考慮し、分散方式を検討しています。

産地確立交付金を減らして産地づくりは大丈夫か

中山間地域等直接支払制度の来年度からの見直しは。

また、産地確立交付金が大幅に減額されている理由は。さらに、各種補助事業後の振興作物と流通販売対策が必要不可欠と考えますが。

中山間地域等直接支払制度は、具体的な検討に入っていると聞いています。

産地確立交付金の減額は、実施面積の増加と国の配分額の減額が大きな要因です。

振興作物と流通対策は、大量生産による市場流通が基本ですが、当面は、本町の生産環境を考慮し、市場外流通のシステム化をめざします。



経済・雇用対策を急げ

約14兆円に及ぶ国の平成21年度第1次補正予算が決まりましたが、どう受け止めていますか。また、地域活性化、経済危機対策および緊急雇用創出事業なども盛り込まれていますが、町の具体的な事業は。

国の補正予算は8項目14兆7千億円もの大型補正で、今後の国民負担の課題はありますが、一定の評価をすべきと考えています。

町として現段階では具体的な事業を検討しており、本町経済の活性化と財政負担の軽減を念頭に、中期実施計画の前倒しなどを考えています。

議会のうごき

臨時会

■ 5月29日（第2回）

議会議員のほか、町長、副町長、教育長の特別職および一般職の職員の夏のボーナス（6月30日支給）の支給率について、2・1・25か月から1・95か月に減額する条例案を、特別職の条例案は全員賛成で、一般職の条例案は賛成多数（賛成8人、反対1人）で、それぞれ原案のとおり可決しました。

これに伴い、一般職全体で約1千万円、職員平均では約6万1千円の減額となりました。

常任委員会

■ 6月10日

■ 6月10日

◎ 請願の審査

6月定例会で付託された次の請願を審査し、採択しました。「教育予算の拡充を求める意見書の採択に関する請願」

産業建設常任委員会

■ 6月10日

◎ 請願の審査

6月定例会で付託された次の請願を審査し、採択しました。「仮称「月山沢八幡坂線」町道認定請願書」

広報公聴常任委員会

◎ 西川町議会だより（69号）の編集

■ 6月11日（編集会議）

■ 6月24日（レイアウト）



山形県町村議会議長会 副会長に就任 村山地方町村議会議長会 長に就任

黒坂久一議長が6月15日から県町村議会議長会副会長、村山地方町村議会議長会会長に就任しました。

県議長会は県内22町村、村山地方議長会は本町のほか、山辺、中山、河北、朝日、大江および大石田の7町の議長で組織し、各議会の連絡調整を図り、地方自治の振興発展に寄与することを目的に、研究・調査や国の機関などへのはたらきかけを行っています。

■ 6月30日（初校）
■ 7月7日（二校）
■ 7月10日（三校）

総務厚生、産業建設常任委員会

■ 6月10日

◎ 行政調査

各常任委員会では、左記のとおり所管事務調査計画を決定しました。

7月22日～23日に実施する秋田県藤里町の議会基本条例およびエコ・グリーンツーリズムを活かしたまちづくり、同じく三種町の梅の里づくりの行政調査の内容を協議しました。

所管事務調査計画

常任委員会	所 管	テ ー マ
総務厚生	総務企画課 町民税務課 出納室 健康福祉課 町立病院 教育委員会 ほかの常任委員会に属さない事務	①保健医療福祉行政 ②教育行政 ③その他所管事項
産業建設	産業振興課 建設水道課 農業委員会	①農林商工観光業の振興 ②町道の認定状況 ③その他所管事項
広報公聴	議会活動の広報、議会活動への町民からの意見聴取	①議会だより発行 ②ホームページ更新 ③町民からの意見聴取 ④その他所管事項

議会のうごき



第71回 睦合小学校相撲大会

行政調査報告

広報公聴常任委員会

■ 5月26日～27日

◆議会だよりの編集

宮城県丸森町、福島県広野町

丸森町は、平成19年度全国町村議会広報コンクールで入選した実績があり、発行にかんする規程と要領を定め、意思統一したなかで編集しています。一般質問や討論は、録音テープをダビングし発言者がまとめるため、発行までに2か月半もかかることが課題になっています。

広野町は、全国コンクールで平成18年度奨励賞、19年度入選、20年度最優秀賞を受賞しました。広報委員も5人から7人に増員し、力を入れていることが伺えました。

本町議会だよりについて「紙面が硬い。余白が少ない。活字が多く漢字が多すぎる。」との批評をいただき、今後、参考にして編集したいと思えます。

(委員長 宮林 昌弘)

議会運営委員会

■ 4月22日

第1回臨時会（4月27日）の運営について決定しました。

■ 5月22日

第2回臨時会（5月29日）の運営について決定しました。

■ 6月2日

第2回6月定例会（6月10



広報公聴常任委員会行政調査

日～12日）の運営について決定しました。

全員協議会

■ 4月22日

◎議会の組織及び役職

副議長、常任委員会委員、議会運営委員会委員および西村山広域行政事務組合議会議員の選任について協議しました。

■ 4月27日

◎議会運用例の改正

本町議会では、諸条例、規則および先例などをもとに議会運営の実質的な指針として議会運用例を定めています。4月1日から全員協議会を議会活動の一環として定めたことなどに伴い、議会運用例の一部を見直すことを決定しました。

■ 6月10日

◎第18期西川町総合開発株の経営状況

西川町総合開発株の落合春信統括本部長から報告がありました。経営状況は、3ページをご覧ください。

◎第3期米月山の経営状況

米月山の鈴木利治代表取締役専務から報告がありました。経営状況は、3ページをご覧ください。

◎学校教育の指針

平成24年4月の西川小学校の開校にあわせて、本町における小学校および中学校の9年間の義務教育の方向性を示した学校教育の指針の説明が町からありました。

町では、「ふるさとを愛し、高い志をもち、ぶなのようにたくましく、ともに学び子ども」を学校教育目標に定め、このような子どもを育てるために次の三つの教育を柱にします。

一つ目の柱は、子どもの未来につながる土台を構築する教育です。同年齢や異年齢集団の多様なかわりを活かしながら、人間として生きていくための基

村山地方町村議会議長会自治功労表彰



佐藤 征男 議員
(9年11か月)

皆様のお陰で受賞できました。今後とも微力ながらがんばります。

(年月数は平成21年3月31日現在)



池上 博 議員
(10年11か月)

今日までの町民の皆様のご指導とご鞭撻に心から感謝します。

■ 議会議員在職9年以上

礎的、基本的な能力を育てていきます。

二つ目の柱は、地域との結びつきを大切にした教育です。ふるさとを愛する心など人間の根っこ部分を育てていきます。

三つ目の柱は、世代をこえ、かわりあう教育です。地域の団体や町民の方と世代を越えてかわることで、命や互いを尊重する心などを育み、幅広い人間形成につなげていきます。

この三つの柱を支えるのが小中一貫教育であり、一貫性のある教育をめざしていくとしています。

◎ 光ファイバー敷設事業

光ファイバー敷設事業の説明が町からありました。

町では本年度、超高速インターネットの通信環境の整備を目的に、間沢川地区を除く町内全域に光ファイバーを敷設します。平成22年3月までに敷設を終え、光ファイバーの回線を通信事業者に貸与し、加入を希望される方は、通信事業者と契約のうえ、3月末からインターネットに接続することができるようです。加入すると、本町議会で中継や町内4か所のライブ中継を見られ

るような検討がされています。

また、町ではあわせて、携帯電話の不感地域解消や地上デジタル放送の難視聴対策への対応を進め、情報価格差の解消を図っていきます。

町では今後、事業の実施にあわせて地区説明会等を開く予定です。

◎ 新型インフルエンザ対策

新型インフルエンザ対策の説明が町からありました。

町では6月10日、対策本部を設置し、5月1日から、町立病院、健康福祉課（保健センター）および町民税務課（役場内）に開設している相談窓口を継続して設置することを確認しました。

◎ 社会福祉医療給付規程の改正

社会福祉医療給付規程の改正の説明が町からありました。

町では、重度心身障がい者や乳幼児等の方の医療を保証するために医療費を助成しています。7月1日から、対象を乳幼児から小学生の入院分まで拡大しました。

町村議会広報研修会

これに伴い、所得税非課税世帯では、小学生の入院分まで負担がありません。また、所得税課税世帯では、3歳未満および第3子以降の小学生の入院分まで負担がありませんが、第1子および第2子は、入院1日につき1200円の負担となります。



第26回 町村議会広報研修会

適当などで4段階評価で2番目の評価（よくできている）でした。この指導を受けて、今号の表紙を見直しました。

行政調査に 来町された議会

◎ 大分県由布市議会

7月1日、バイオマスタウン構想並びに耕作放棄地対策の取り組み状況調査のため、5人の議員と議会事務局職員1人の6人が来町されました。

さつきづくり

庭先に30種60鉢

秋場輝一さん(77歳)
(西間沢町内会)



さつきは、5月下旬から6月が見ごろです。今年も5月31日から6月7日までの期間、第31回の町さつき祭りが水沢温泉館で開かれました。5月31日に併設する月山銘水館で月山山菜市場が開催され、例年にも増して多くの皆さんから訪れていただきました。

町内のさつき愛好者からなる月山さつき会は、最盛期には20人ほど会員がいましたが、高齢化が進み、昭和53年の発足当初からの会員は3人だけになりました。発足当時、顧問格の佐藤宗一さん(元町長)と白田喜吉さん、会長の黒田益之助さん(下堀)、副会長の松田庄松さん(吉川第一)たちと切磋琢磨して、技術や意見を交換したことが懐かしく思い出されます。自分で最初に挿し木をして手がけてから50年を越えました。「つくれなくなったので頼む。」と言われてもらってきたりして、いまでは大小あわせて30種60鉢をつくっています。

さつきは菊と同じで手数がかかります。花摘み、剪定、植え替え、さらに開花の時期には、雨が当たらないように屋根を掛けなければなりません。なかで

も剪定がもつとも大変です。木が若いときから将来のイメージを描き、枝棚が段違いで左右交互になるように枝を作ります。枝ぶりの基本形は直幹仕立、一番人気は模様木です。そのほかに根上がり、根連なり、寄せ植えなどがあります。見よう見まねの我流でやってきましたが、ようやく自分でも満足できる枝ぶりになってきたような感じがします。花盛りを過ぎた夏季の水かけも根気のいる作業です。次の年、また色鮮やかな花が咲くことを考えながら毎日、朝晩の2回、水をかけています。毎年6月、満開のさつきをお貸しすることで、愛好者が増えるのかなとも考えています。



第31回 西川町さつき祭り

69号の表紙

心、頭、体を
いっぱい働かせて



沼山小学校で5月21日に行われた「たけのこ採り」学校の前の竹林で、全校児童が互いに力をあわせて、たけのこを探し、採りました。「初めてやったが楽しかった。」と額に汗しながら1年生。たけのこは、6月7日の親子給食の食卓に並びました。

議員任期4年の2年が過ぎ、折り返し地点で、副議長をはじめ各常任委員会等の構成が変わり、今号に掲載しました。

今年も半年があつという間に過ぎました。

1年は、昨日、今日、明日の3日間の連続であり、3日間の連続が1か月を刻み、1年を刻み、そして長い歴史を刻んでいきます。言い替えば、3日間は過去であり、現在であり、未来でもあります。

本町の過去の歴史を顧み、現在を注視し、そして未来を展望しながら、明るい豊かな未来が拓けるように念願するものです。

議会だよりも、多くの町民の皆さんからご愛読いただき、親しまれるように、委員一同、一意専心努めてまいります。

(宮林 昌弘)

編集後記

《発行・編集責任者》

議長 黒坂 久一

《編集委員》

委員長 宮林 昌弘

副委員長 古澤 俊一

委員 青山 知教

松田 昌一

議会へのおさそい

皆さん傍聴してみませんか

次回定例会は
9月招集です